全国市議会議長会研究フォーラム研修報告書

2025年3月27日

渡邉英子

開催名：全国市議会議長会研究フォーラム　in 盛岡

日　時：令和6年10月9日（水）・10日（木）

会　場：トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

第1日目　【パネルディスカッション】

「地方議会の課題と主権者教育」

■コーディネーター

井柳　美紀　氏　［静岡大学人文社会学部法学科教授］

｛主権者教育の新たな展開｝

議長会による主権者教育の推進

〇地方議会の課題

・投票率の低下

・無投票当選の増加

・議員の性別や年齢構成の偏り、など

〇議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進すること。

〇いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を講ずること。

■パネリスト

法政大学法学部教授　土山　希美枝　氏

「誰がための主権者教育」か？

〇市民と議会の間にあるもの、若者と社会の間にあるもの

・議会と市民の間にある「へだたり」

➡議会が何をしているか、議員が何をしているか、という理解度に関する調査

・若者と社会（若者でないものが作り存在している環境）の間にある「へだたり」

➡自分や自分の意思決定、作用に対する意思決定の弱さ

〇議会は主権者教育の「主体」か？

・議会は「教育」として何を行えるか

➡誰が対象か？（すべての子ども・若者に同じ機会を提供するのか？）

➡手法は教育に値する内容か？

・政府は市民を「教育」すべきか？

○議会と子ども・若者達・教育機関との関係の中で「主権者教育という機能」

・なぜ「高校生議会」の取組は広がるのか

➡エンパワメントされる議会・議員、エンパワメントされるかもしれない子ども・若者、「主権者教育」に戸惑っているかもしれない学校

・議会の本来機能は何か、そこからみたときの「子ども・若者議会」の機能は何か

・子ども・若者から見たときの機能と価値

➡未来の市民として

・「学び合う」という機能を議会という場で発揮する

➡内包されるべきものは何か

対話性・議論性/地域性・政策性（争点性）/ヒロバ性

その結果「集合的意思形成」

・子ども・若者のための議会と学校の連携

○議会は何をなすべきか

・どれほどの資源を用意するのか、議会の「本来の」機能にとってどのような意味をもたせるのか、それぞれの現場で確認が必要

■パネリスト

一般社団法人　WONDER EDUCATION　代表理事　越智　大貴　氏

{若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性}

○「18歳意識調査（2024）」

① 政治に関心が特別低いわけではない。
② 自分で国や社会を変えられると思っていない。
③ 社会のために役立ちたいとまあまあ思っている。

政治に関心がないから選挙に行かないというよりも、
どうせ変わらないから選挙に行かないということがわかる。
一方で、社会のために役立ちたいと思っている。

まとめ

○若者は、政治や社会をどう捉えているのか？

→若者は、関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。

【議会の役割】交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる、と思うことや「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やす。

○学校現場における主権者教育の現状

→政治的中立への過度な配慮もあるが、それは学校が悪いわけではない。

【議会の役割】学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる。

（例）外部団体（学生など）と超党派で主権者教育チームをつくる。

ただし、政治活動として使わない。主権者教育は「教育」であり「イベント」ではない。

○13年間の主権者教育の取組について

→政治'家'とも交流は、子どもたちの政治意識の醸成に大きく影響する。

□１回でも議員との交流機会をつくっていきたい！

■パネリスト

読売新聞東京本社　渡辺　嘉久　氏

～学校の未来を考える～

50年後の学校

→人口減少社会

→生徒数も減る

→授業料収入も減る

→どう賄うか？

○3つの選択肢

～メリットとデメリット、疑問～

A＝授業料を引き上げる

○利益を受ける人が負担する（受益者負担）

✕親の負担が増える

B＝地域住民が授業料を負担する

○親の経済状況にかかわらず通える

✕高校生の子どもがいない人は負担が増えるだけ

C＝借金で賄う

○誰の負担も増えずに学校生活が充実する

？借金は返せるのか

どれを支持するか？

○情報が未来を左右する！

☆未来を決めるのに必要な情報を持っているか？

☆その情報は正しいか？

「政治とつながる」とは？

「政治」は「未来」

「政治とつながる」＝「未来とつながる」

「政治を考える」＝「未来を考える」

・

「自分の未来を創造する」

○「世の中で起きていること、これから起きること」考えるためには・・・

「時間は未来から流れてくる」

☆どういう未来を生きたいか？

理想の未来は？

「こうありたい」という未来は？

☆「こうありたい」という未来のために、何が必要か？

・

重要な意思決定は７世代先の人々になりきって考える

■パネリスト

盛岡市議会議長　遠藤　政幸　氏

{盛岡市議会の取組}

○盛岡市議会　高校生議会

平成28年12月～高校生議会開催の検討（議会運営委員会）

・議会による主権者教育として、高校生が議会を経験する機会を設けたい。

・議員にとっても刺激を得る機会としたい。

■盛岡市議会高校生議会の開催目的

・次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること

（1）盛岡市議会として主権者教育に取り組むものであること

第１回から、盛岡市議会主催により開催参加者は高校生と盛岡市議会議員

（2）議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること

高校生が１日の行事を通じて、定例会の議案審査の流れを疑似的に体験

（3）議員が高校生と直接交流する場であること

高校生と市議会議員が、市政の課題について意見交換し、提言をまとめる

高校生　参加者の声

「市政に関心を持った」

「議会の役割が理解できた」

○もりおかmiraiおでかけミーティング

・市議会が大学に「おでかけ」し、学生と意見交換を行う事業

・盛岡地域の３つの大学で開催

・議員がファシリテーターとなり進行

ワールドカフェ方式を採用し、学生と議員が、テーブルを移動しながら市政について意見交換

第２日目　課題討議「主権者教育の取組報告」

地方議会と主権者教育

■コーディネーター

東北大学大学院情報課学研究科　准教授　河村　和徳　氏

○理想と現実

理想

・主権者教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべき

・地域の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向に持っていくべき

・社会には多様な意見があり、多様な意見を理解する（ディベート）

現実

・知識の享受（制度の理解）が中心、正解を教えようとする

・投票者重視（模擬投票）の教育

・実施の主体が「公（教育委員会、選挙管理委員会）」・・・連携の不十分さ

○現在の主権者教育で感じる限界

・模擬投票に偏りすぎた教育

・模擬投票は選挙の仕組みを学ぶ上で有効だが・・・

・選管の出前講座もそうなりがち

・選挙権年齢引き下げ以前なら、現実の事例を使えたが・・・

・政治的中立の足枷

・政治的発言をしないことだけが政治的中立というわけではないのだが・・

・ディベートの不足・・・ノウハウの乏しさ

○議員と会うだけでも意味がある

・子どもたちにとって「議員と会う」ことは、普段接している大人と違う場として機能する

・どの段階で会うべきか

・小学生以下は？課題がある地域では？

・個人で会うか、組織で会うか

・組織で会うほうが望ましいのでは？選挙運動ととられる可能性がある

・オンラインも意識

・議員が話すか、子どもたちが話すか

・代表の子の発表を聞いてあげるほうがベター？

【事例報告者】

長野県伊那市議会　前議長　白鳥　敏明　氏

{高校生の議会傍聴と意見交換会}

○取組に至る経緯

平成30年の市議会議員選挙が無投票に（定数21人）

議員のなり手不足に危機感を抱く。

・

全議員参加（平成30年6月）の「魅力ある議会づくり検討会」を設置

開かれた議会を目指し、議会改革の一環として実施

・

【議会への関心を高めるための方策として】

若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の　議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定

○取組の結果

【議員の感想】

・高校生の真剣に取り組む姿に感動

・高校生の声を直接聞ける良い機会、今後も積極的に行きたい。

【高校生の感想】

・緊張したが、話をしているうちに自分の意見を言うことができ、伊那市のことをよく知ることができた。

・議員さんと話すのは緊張したが、親身に聞いてもらえてアドバイスも

もらえた。

・将来、政治家になりたいと思った。

他事例あり

〈感想〉

主権者教育については各自治体や地方議会によっても様々な取り組み方がある。新たな展開に向けての主権者教育推進を進めることで、議会に関する関心を高め、理解を深めることが、投票率アップにも繋がっていくのではないかと思う。特に18歳からの選挙権がについては、高校教育の中で、主権者教育をもっと進めるべきととらえる。まずは、地方議会が主権者教育についての進め方を改めて考え、推進していかなければならないのではないだろうか。

盛岡市　官民連携の取り組み（情報発信交流拠点・動物公園再生事業）視察

◎盛岡という星でプロジェクト事業

〇盛岡市市長公室都市戦略室：株式会社川徳

・盛岡市から東京圏への若年層の転出超過が顕著であるとの社会動態の特徴を踏まえ平成30年度より盛岡市の移住定住関係人口対策である盛岡という星でプロジェクトを展開

・株式会社川徳との地方創生に関する連携協定を契機に、若者の地元定着と移住・定住の促進、関係人口の創出・拡大などについて連携して取り組み、地方創生施策を推進することを目的に交流拠点を設置している。

関係人口交流拠点「盛岡という星でBASE　STATION」の設置

1.設置の目的

東京圏などの若者層向けの情報発信などの取り組みを効果的に行うとともに関係人口や地元の高校生などの若者が地元の企業や団体が抱える地域課題にかかわる機会を創出するため関係人口交流拠点を設置したもの

2. 機能

- 移住相談
- 情報発信
- 盛岡広域の暮らし体験ツアーなどの受け入れ
- 地域課題×関係人口マッチング
- 高校生・大学生等×地域課題マッチング　など

〈感想〉

株式会社川徳の元家具店舗を利用しており、一階には、装飾品や雑貨、小物などのおしゃれなお店がある。B1に降りるとアートギャラリー、イベントスペース、シェアオフィス、

ワークショップスペースなどがあり、移住相談窓口では、地域おこし協力隊が活躍している。フロア全体が、シックで落ち着いた雰囲気があり、若者が集まりたくなる雰囲気が、漂っている。また、高校生、大学生、専門学生が地域課題の解決に取り組むためのイベントやミーティングを行う場合は、会場を一部無料で使うことができるということで、学生たちのアイディアがフロア内のあちらこちらに見ることができた。さらに、オリジナルのステッカー、クリアファイル、ポストカードなどさまざまなグッズを販売し、施設内の設備やサービス向上に使われているとともに、ふるさと納税の返礼品としても採用されているとのことだった。地方創生施策を推進するために、若者が中心になってさまざまなアイディアを生み出し活躍する交流拠点の設置は、まさに官民連携の取り組みであると痛感した。

◎盛岡市動物公園再生事業

〇盛岡市：(株)盛岡パークマネジメント

・新たな付加価値をつくる再生事業を行うため、「株式会社盛岡パークマネジメント」を2019年に設立。従来の行政の枠組みにとらわれず、行政の規制を緩和しながら民間企業同士のつながりやフットワークを生かす、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）を採用し、運営をしている。2023年4月にリニューアルオープンを迎えた後は、市民の憩いの場としてのみならず、動物福祉をコンセプトに、社会教育、生物多様性保全の拠点としての役割を担うとともに様々な取り組みを行っている。また、2024年4月には、全国初の動物園内フリースクール「ぐるぐるの森」が開校し、盛岡の社会課題解決の一助になる事業を進めている。

・動物の暮らす環境、来園者が得る体験、飼育スタッフの労働環境の課題を抜本的に解決し、新たな収益コンテンツの導入等、民間が「稼ぐ」環境を整えることで、結果的に盛岡市の財政負担を軽減し、健全な自治体運営を行うため、公民連携事業により動物公園を再生することとなった。

◎　15年間で合計約3億円の市負担額の削減となった。

〈感想〉

円全体が窮地で園内の移動は徒歩でかなりの距離を歩く事になるが、ベンチや休憩スペー

スがいたるところに設置されており、動物園でありながら、自然豊かな公園の中を散歩している雰囲気があり、まさに市民の憩いの場になっていると感じた。また、それぞれの動物たちが自然の中でリラックスして生活しており、動物たちの暮らしやすい環境がかなり整っていることが伝わってきた。

事業背景には、動物公園運営費の約9割を市が負担しており、従前の運営を続けると市の財政負担の更なる増加が予想されたということで、公民連携により、動物公園を再生することとなったが、15年間で合計約3億円の市負担額の軽減となったことは、公民連携事業の大成功の例と感じた。また、市の財政負担の軽減だけでなく、動物たちにとっての素晴らしい環境が整ったことはとても素晴らしいことと感じた。